

2005年6月期第3四半期決算説明会



2005年5月13日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2005年6月期第3四半期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2005年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

1. **第3四半期決算の概要**
2. **グループ各社の概況**
3. **IRIグループの全体戦略**

1. 第3四半期決算の概要

1-1. 2005年6月期第3四半期決算サマリー

(単位:百万円)

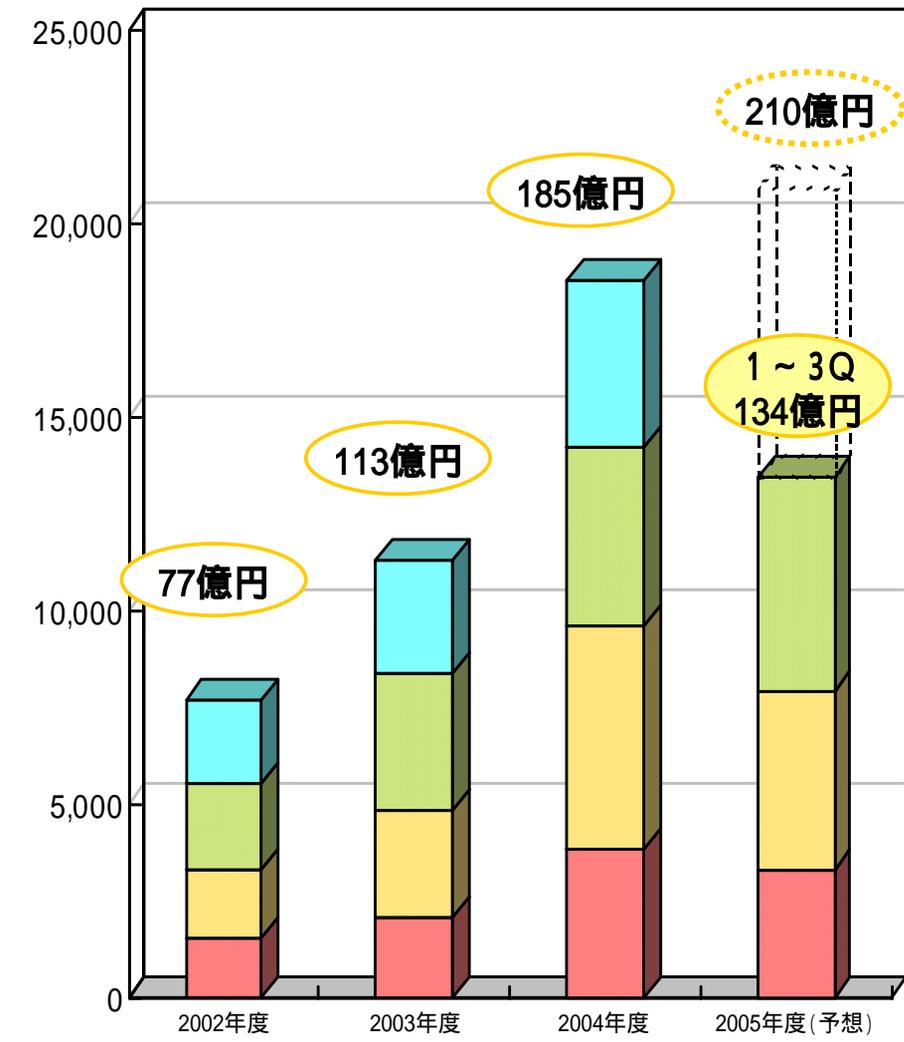
		2005年6月期 第3四半期実績	2004年6月期 第3四半期実績	前年同期差	2005年6月期 通期予想	達成率
連結	売上高	13,471	14,247	775	21,000	64.1%
	営業利益	190	15	+174	800	23.8%
	経常利益	325	201	+526	700	46.4%
	当期利益	103	305	202	400	25.8%

		2005年6月期 第3四半期実績	2004年6月期 第3四半期実績	前年同期差	2005年6月期 通期予想	達成率
単体	売上高	202	6,099	5,897	780	25.9%
	営業利益	438	140	297	390	---
	経常利益	294	343	+49	390	---
	当期利益	170	560	730	390	---

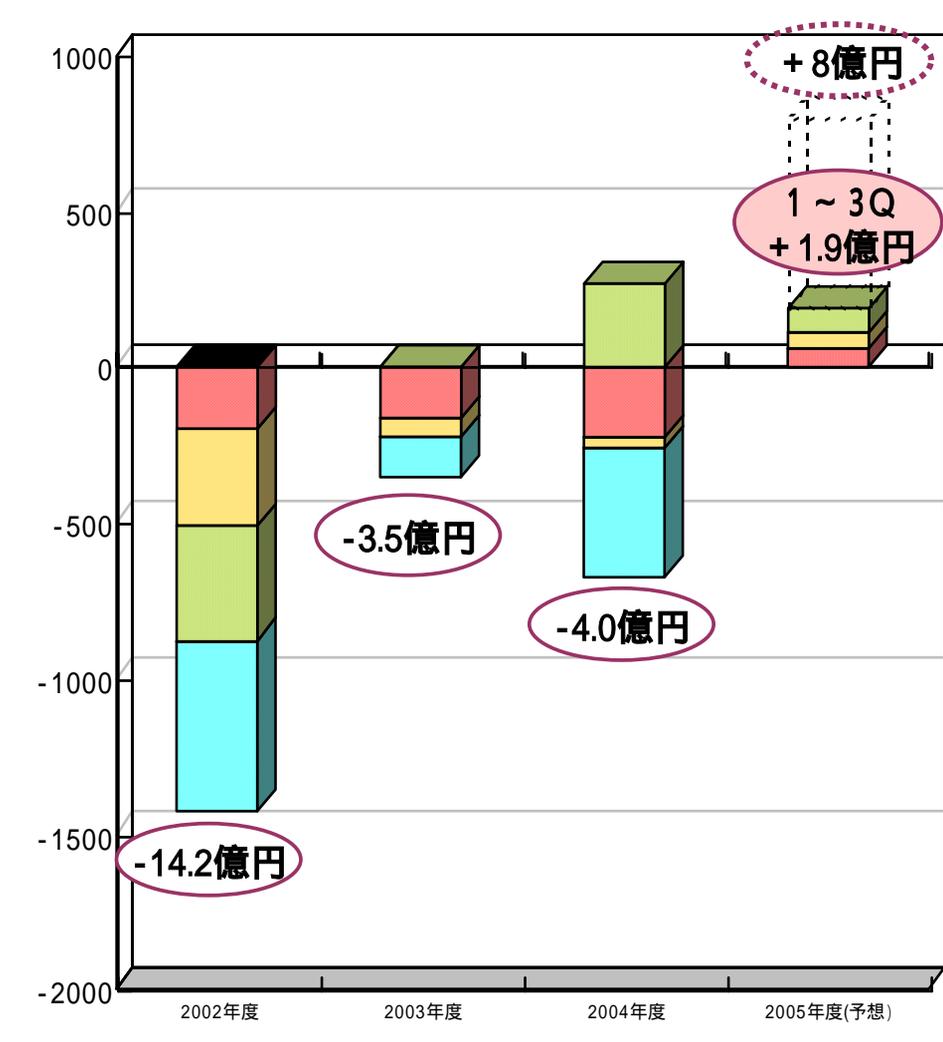
1-2. 通期業績推移の四半期内訳

■ 第1四半期
 ■ 第2四半期
 ■ 第3四半期
 ■ 第4四半期

< 四半期別売上高推移 > (単位: 百万円)

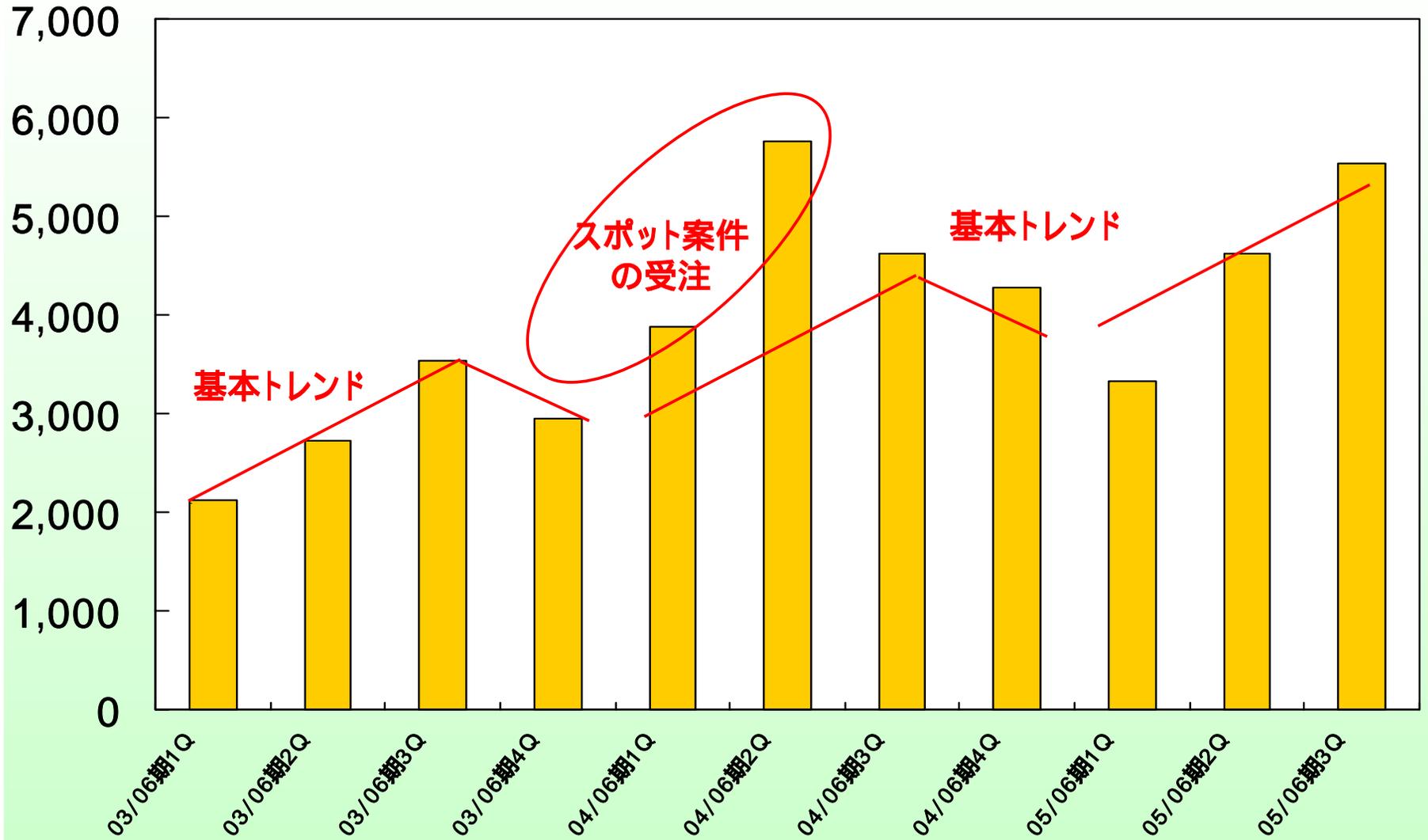


< 四半期別営業利益推移 > (単位: 百万円)



1-3. 四半期業績推移(売上高)

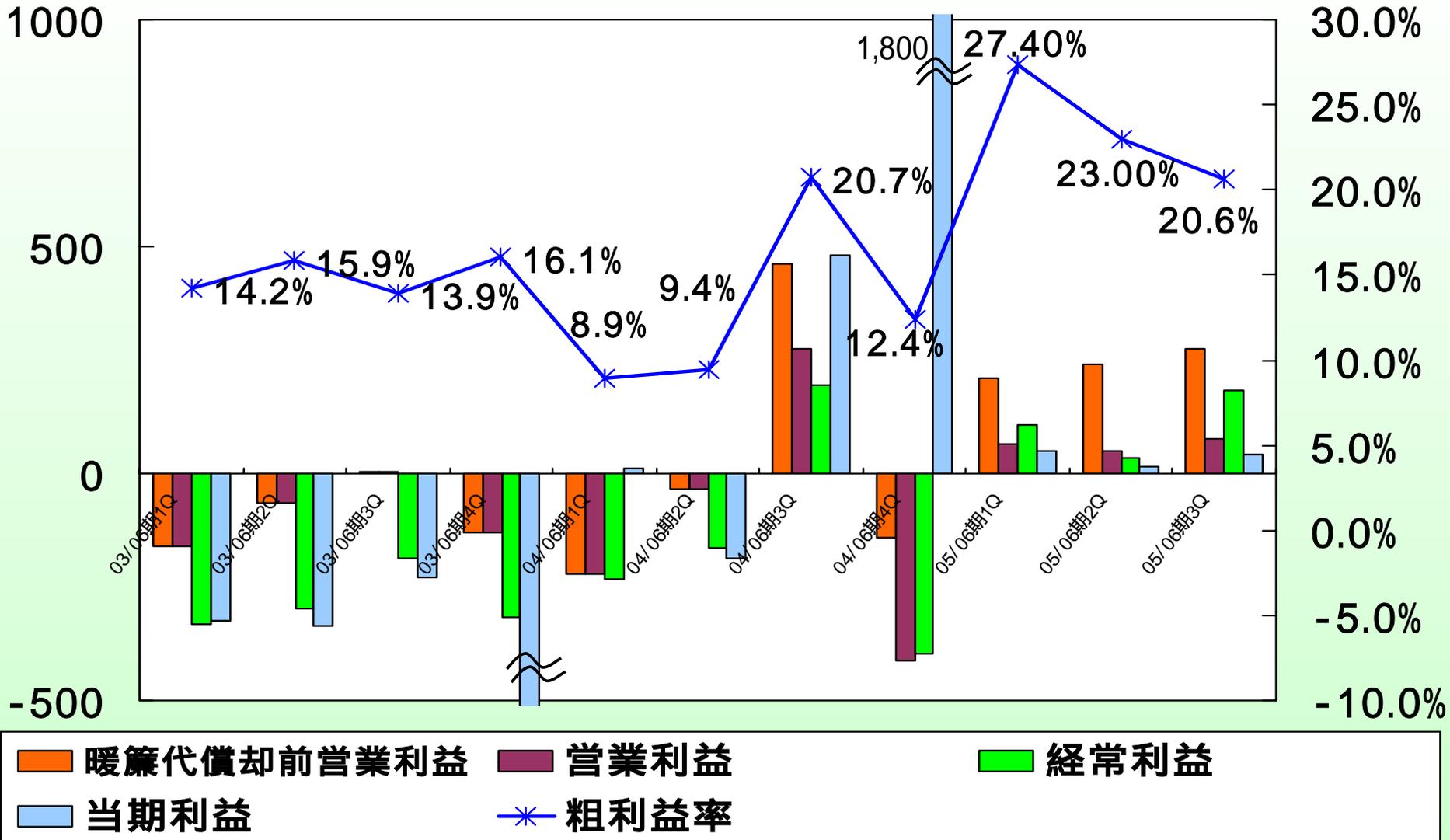
(単位:百万円)



1-4. 四半期業績推移 (利益)

(単位: 百万円)

四半期ベースでの営業・経常・当期利益は3Qも黒字継続



1-5. 連結PL概要

(単位:百万円)

	2004/6月期						2005/6月期				
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計	前年同期比
売上高	3,871	5,762	4,615	14,248	4,278	18,525	3,334	4,598	5,538	13,471	95%
[IPネットワーク事業]	2,253	4,015	2,711	8,979	2,816	11,796	2,079	3,457	4,247	9,783	109%
[IPプラットフォーム事業]	1,615	1,744	1,901	5,260	1,458	6,719	1,252	1,114	1,240	3,606	69%
[その他事業]	2	2	2	6	2	9	2	27	50	79	1317%
売上総利益	347	544	958	1,849	534	2,382	914	1,058	1,141	3,113	168%
売上総利益率	9.0%	9.4%	20.8%	13.0%	12.5%	12.9%	27.4%	23.0%	20.6%	23.1%	178%
販管費	568	581	685	1,834	947	2,781	847	1,010	1,065	2,923	159%
営業利益	221	37	273	15	413	398	67	48	75	190	1267%
経常利益	233	166	197	202	399	600	107	35	183	325	-
当期純利益	10	187	483	306	1,507	1,812	48	14	40	102	33%
暖簾代償却費	0	0	191	191	271	461	145	191	201	537	281%
減価償却費	97	86	120	303	138	443	109	123	134	366	121%
暖簾代償却前営業利益	221	37	464	206	143	63	211	239	276	727	353%
EBITDA	124	50	584	509	3	506	320	362	410	1,093	215%

- ・**売上高**:前期を下回るが、前期は大口のスポット案件(主に利益率の低い機器販売)による一時的な増加要因があったことと利益率の高い案件に営業活動をシフトしたことに因る
- ・**IPネットワーク事業**:上記の減収要因があったが、BBTowerの業績拡大により売上増加
- ・**IPプラットフォーム事業**:IRIユビテックにおいて大口売上先における量産案件の製造終了時期に重なった為売上減少
- ・**売上総利益**:売上総利益の前期比 大幅増加 + 採算性の重視に伴う利益率の向上(13.0% 23.1%)
- ・**営業利益**:連結子会社(PoD、ファイル・テック)増に伴う販管費増加やM&Aによる暖簾代償却費の増加を吸収し、営業利益が大幅増加
- ・**経常利益**:前期は新株発行費1.4億円を計上したことなどにより経常赤字だが、当期は黒字転換
- ・**当期利益**:前期はパソナテック社上場に伴う関係会社株式売却益という一時的な増益要因あり

1-6. 連結BS概要

(単位:百万円)	2004/6月期				2005/6月期			
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	中間期	3Q	前期末比
流動資産	6,933	12,229	10,820	10,375	8,699	12,908	13,943	134.4%
うち 現金及び預金	2,256	5,004	4,047	3,988	3,939	5,637	5,566	139.6%
うち 受取手形及び売掛金	3,513	6,227	5,654	5,555	4,010	4,083	5,024	90.4%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	526	355	494	329	463	2,832	2,910	884.5%
固定資産	4,287	4,342	5,981	6,623	7,056	8,739	8,960	135.3%
うち 有形固定資産	2,250	2,243	2,295	2,311	2,404	2,572	2,596	112.3%
うち 無形固定資産	50	194	2,000	1,787	1,663	2,107	2,000	111.9%
うち 投資その他資産	1,986	1,904	1,685	2,524	2,988	4,059	4,363	172.9%
うち 繰延資産	---	---	---	---	---	16	15	
資産合計	11,220	16,572	16,802	16,999	15,756	21,664	22,918	134.8%
流動負債	4,773	7,785	6,943	5,541	4,141	3,833	5,028	90.7%
うち 支払手形及び買掛金	2,801	5,676	5,027	4,226	2,803	2,333	3,551	84.0%
うち 短期借入金	990	1,040	600	100	100	243	232	232.0%
固定負債	749	633	565	607	523	4,993	4,900	807.2%
うち 新株予約権付社債	---	---	---	---	---	4,500	4,500	
負債合計	5,523	8,419	7,509	6,148	4,664	8,826	9,929	161.5%
少数株主持分	1,104	924	993	1,003	1,178	2,024	2,126	212.0%
資本金	2,226	3,640	3,843	3,855	3,866	3,900	3,906	101.3%
資本準備金	4,536	5,950	6,245	6,255	6,266	7,058	7,065	112.9%
利益剰余金	2,101	2,289	1,803	279	243	162	121	43.4%
資本合計	4,592	7,229	8,298	9,847	9,913	10,813	10,862	110.3%

- ・**流動資産の増加**: 社債発行に伴う現金預金の増加、ファイナンス事業に係る前払費用の発生
- ・**固定資産の増加**: ファイバーテック買収に伴う暖簾代(連結調整勘定)の増加、ファイナンス事業に係る預託金の発生
- ・**流動負債の減少**: 売掛金の減少に伴う買掛金の減少
- ・**固定負債の増加**: 新株予約権付社債の発行に伴う増加
- ・**少数株主持分の増加**: IRI-Com株式・IRIコピテック株式の売却、PoDの連結子会社化、BBTowerの業績拡大

1-7. 連結CF概要

(単位:百万円)	2004/6月期		2005/6月期		
	第3四半期末	決算期末	中間期末	第3四半期末	3Q-3ヶ月 (差引)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	221	514	1,902	1,502	400
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,142	680	826	1,171	-345
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,718	2,949	4,205	4,077	-128
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	5	4	1	3
V 現金及び現金同等物の増加額	1,791	1,748	1,472	1,401	-71
現金及び現金同等物の期首残高	2,251	2,251	3,999	3,999	0
連結子会社増加による増加額	-	-	111	111	0
現金及び現金同等物の期末残高	4,042	3,999	5,584	5,512	-72

前年同期との比較

- ・営業CFの減少: ファイナンス事業に係る前払費用(約23億円)の計上
- ・投資CFの減少: ファイナンス事業に係る預託金の支出・投資有価証券の取得
- ・財務CFの増加: 新株予約権付社債の発行

3Q(2005年1~3月の3ヶ月)の状況

- ・営業CFの増加: 営業黒字
- ・投資CFの減少: 投資有価証券の取得
- ・財務CFの減少: 設備未払金の支払

1-8. グループ会社別業績内訳

単位:百万円

	売上高				営業利益				経常利益				当期利益			
	2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期	
	3Q累計	通期	3Q累計	通期計画	3Q累計	通期	3Q累計	通期計画	3Q累計	通期	3Q累計	通期計画	3Q累計	通期	3Q累計	通期計画
IRI単体	6,099	7,384	202	780	-140	-478	-438	-390	-343	-636	-294	-390	560	39	-170	-390
BBTower	2,060	3,006	3,331	4,748	149	294	470	511	119	251	455	476	175	303	489	647
IRIユビテック	5,085	6,499	3,364	4,432	434	430	360	470	433	427	371	461	323	303	202	256
BBX(1)	561	971			-328	-458			-322	-446			-330	-455		
IRI-Com(1)	333	774	5,721	8,200	-70	-151	3	450	-72	-154	15	430	-44	-185	-76	400
IRI-CT	339	480	490	660	11	12	27	50	10	11	26	49	10	10	26	49
その他(2)	60	22	695	1,200	-11	-22	-4	41	-12	-23	-2	38	-12	-23	-18	10
合計【単純合算】	14,541	19,136	13,805	20,020	44	-373	420	1,132	-187	-571	591	1,064	628	-12	456	972
連結修正仕訳	-294	-616	-333		-29	-23	-230	-332	-14	-30	-266	-364	-323	1,824	-353	-572
連結合計	14,247	18,525	13,431	21,000	15	-398	190	800	-201	-600	325	700	305	1,812	103	400

(1)2004年10月1日よりBBXとIRI-Comは合併

(2)その他は、IRI-USA、IRI-FT、IRI-FTA、PoD、ファイバーテック

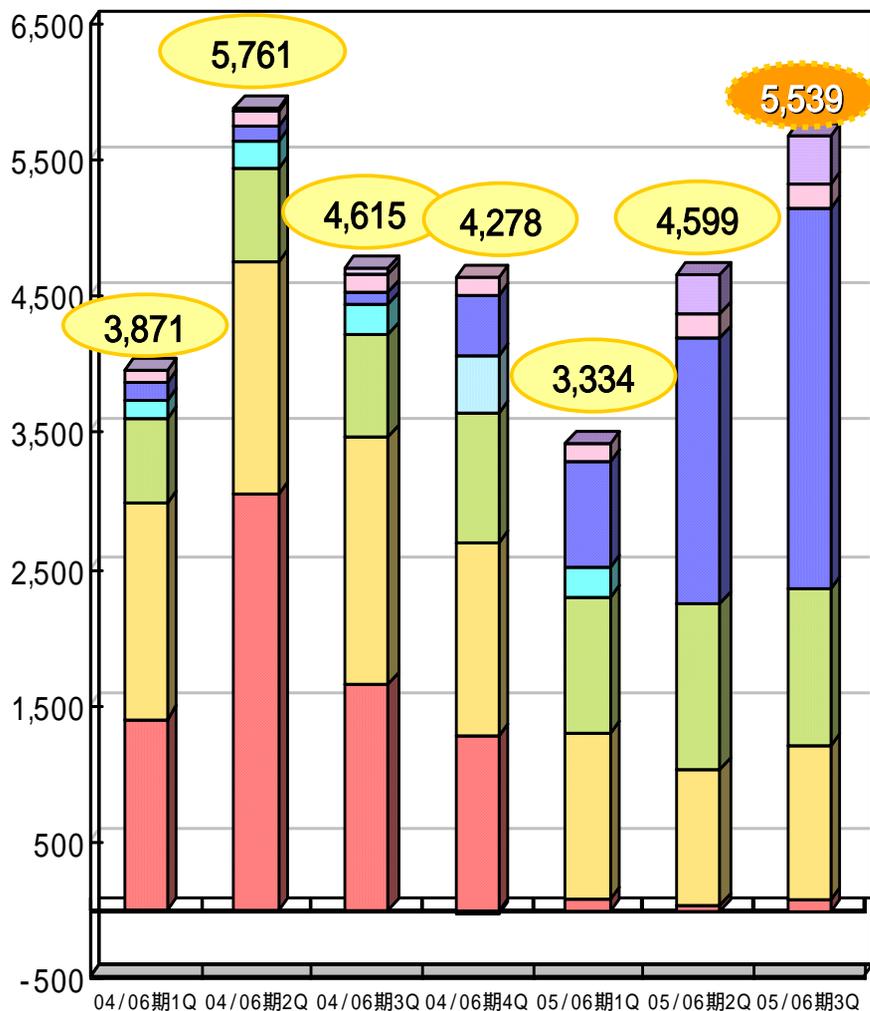
(3)通期計画は各子会社間の数値見直しを実施したが連結計画は公表数値を継続する

1-9. グループ会社別四半期業績推移 (売上高・営業利益)

■ IRI本体
 ■ IRIユビテック
 ■ BBTower
 ■ BBX
 ■ IRI-Com
 ■ IRI-CT
 ■ その他

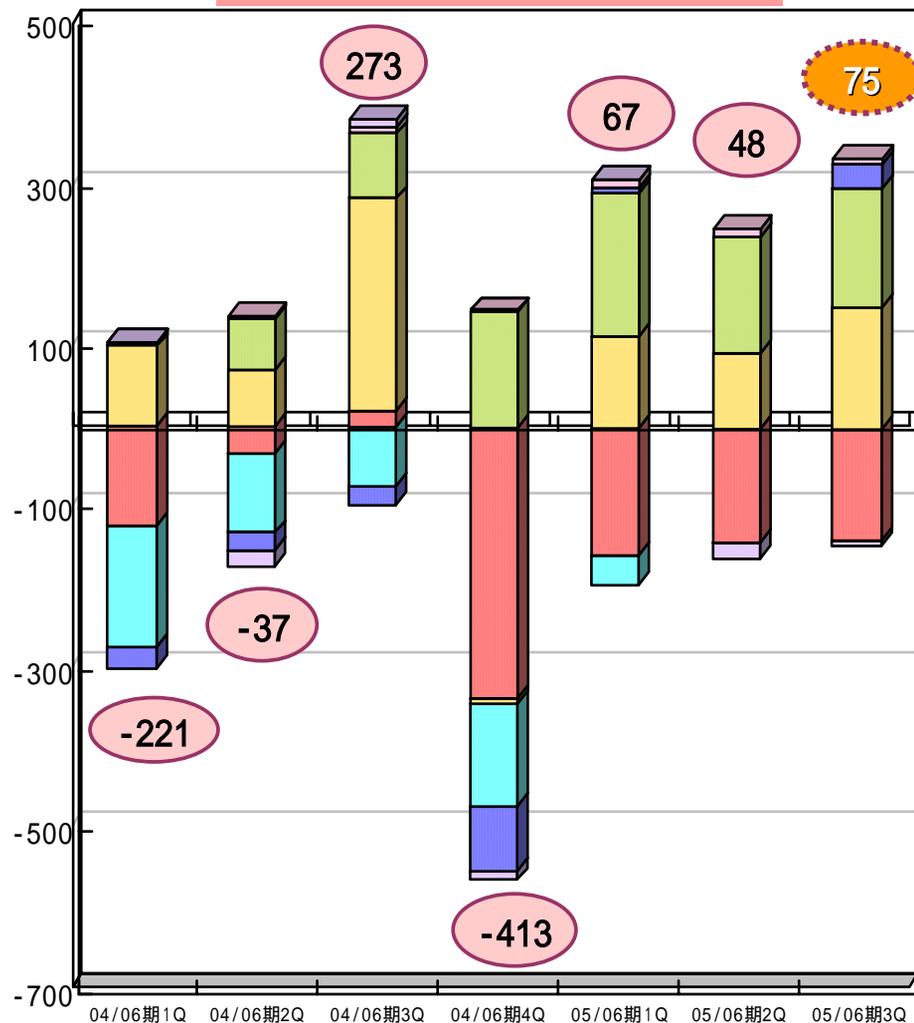
(単位: 百万円)

< 会社別売上高推移 >

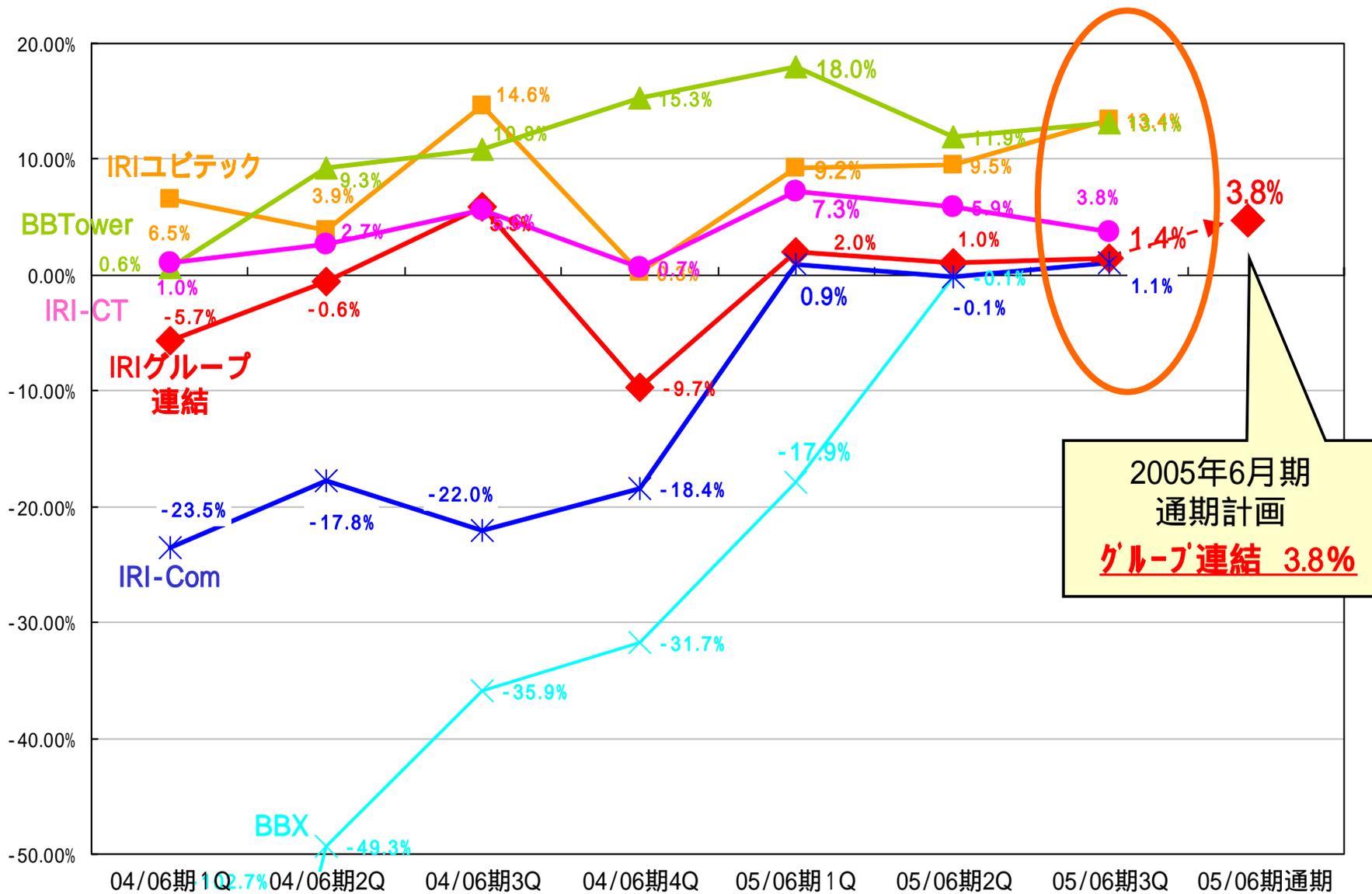


(単位: 百万円)

< 会社別営業利益推移 >



1-10. グループ会社別営業利益率の推移



2005年6月期
通期計画
グループ連結 3.8%

1-11. 今期の営業利益の改善計画と3Qまでの進捗状況

期初時点の通期計画

第3四半期までの進捗状況

04年6月期
連結営業損失

前期実績
398

単体の
利益改善
計画 + 90

進捗 + 40

BBTowerの
利益改善
計画 + 90

進捗 + 176

IRIコピテックの
利益改善
計画 + 70

進捗 69

進捗 + 591

IRI-Comの
利益改善
計画 + 1.110

IRI-CTの
利益改善
計画 + 40

その他の
利益改善
計画 + 50

連結修正額の
費用増加
計画 250

通期で連結
12億円の改善計画

進捗 + 15

進捗 + 18

進捗 204

第3四半期まで連結
5.9億円の改善

05年6月期
連結営業利益

今期計画
+ 800

3Q進捗実績
+190

計画数値は概数となっております。
単位は百万円

1-12. 財務ハイライト(2005年1月～)

IRIコミュニケーションズ、メディモと高級ケアハウスのITサービスで業務提携

- ・IRIコミュニケーションズ(IRI-Com)が日興コーディアル証券から受注した「次世代オンライン・コミュニケーション・システム」をメディモが展開する高級ケアハウスに導入。
医療機関、家族とのコミュニケーションツールとしての活用。
- ・IRI-Comのメディモへの出資比率82.8%。出資日:2005年1月12日。

日本インターネットエクスチェンジの第三者割当増資を引受

- ・日本インターネットエクスチェンジ(JPIX)とIRIグループとのシナジー効果を一層発揮することを目的。
- ・JPIXが発行する株式数1,800株のうち、650株を引受け。増資後のIRIの出資比率は17.4%。
引受日:2005年4月11日。

株式分割を発表

- ・IRI株式の流通向上性および株主数の増加を図ることを目的。
- ・2005年6月30日時点の株主に対し1株につき2株の割合をもって分割。
- ・効力発生日:2005年8月19日。

SBIベンチャーズとの業務提携

- ・ソフトバンク・インベストメント(SBI)の100%子会社であるSBIベンチャーズ(SBIV)が組成・運営するブロードバンド関連ファンド(SBIブロードバンドファンド1号投資事業有限責任組合)へ出資
 - ・投資先のテクノロジー面での目利きをIRIが担うことで、投資事業としての成功確率を高める。
 - ・発掘されるベンチャー企業の技術をもとにIRIの新事業のコアを創ることや、双方にメリットがあれば投資先企業が当社グループ入りすることも視野。
 - ・放送とインターネットの融合分野に重点指向する要素技術の発掘や事業機会の創造。

2. グループ各社の概況

2-1. 連結グループ構成

グループ企業価値の最大化

代表取締役社長
 藤原 洋
 従業員数: 18人(子会社出向含まず)

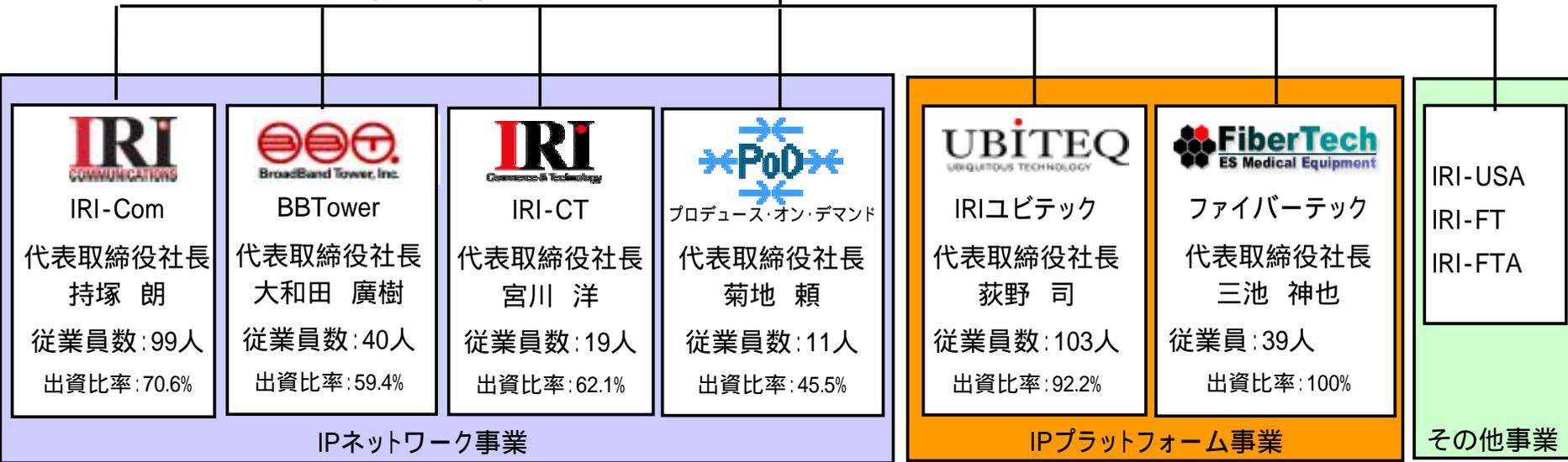
- 本社機能
- < 財務機能 >
- < グループ・ガバナンス機能 >
- < 横断的な成長戦略の策定機能 >
- < M&Aを積極活用した新事業の創出 >

グループ会社の役割を明確化した『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の増大を目指す

出資比率: 3月末現在

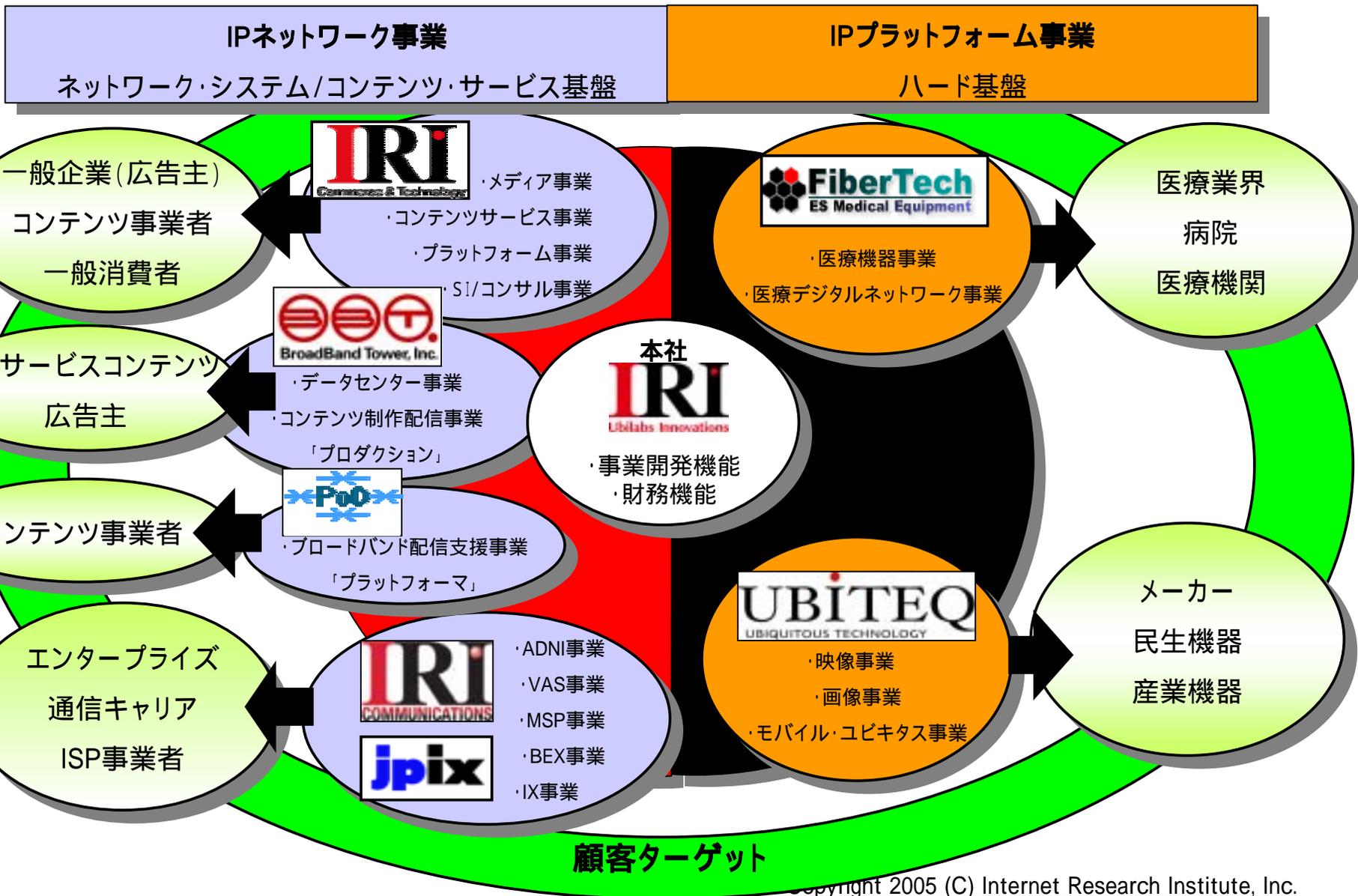
従業員: 12月末時点(役員除く)

連結子会社群



各グループ子会社は自己資金調達力を強化
 事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

2-2.事業展開: IP技術を用いたサービス・インフラ基盤の提供





ユビキタスプラットフォームの構築

ユビキタス研究所

ユビキタスネットワーク関連の研究開発

- ・ IPv6センサーネットワーク
- ・ 無線LAN/無線ICタグシステム
- ・ 次世代映像配信システム
- ・ 次世代デジタルテレビ
- ・ 次世代モバイル通信技術

設立	: 1977年11月
資本金	: 6億700万円
取締役会長	: 藤原 洋
代表取締役社長	: 荻野 司
出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所(96.0%) 松下電工株式会社、三井物産株式会社

ハードウェア、モバイル通信システム関連、ソフトウェアの 開発・製造(ファブレス)・販売

[ハードウェア] 液晶プロジェクタ用PCインターフェースボード、
デジタル複写機用画像処理ボード等

[モバイル通信システム関連] 携帯電話新機種評価業務、カルテ検索システム等

[ソフトウェア] 動画・静止画検索システム、自動書籍朗読システム、
高速全文検索システム等

主要取引先は、大手製造業や通信業

- ・ シャープ株式会社
- ・ オムロン株式会社
- ・ ボーダフォングループ 等
- ・ 富士写真光機株式会社
- ・ オリンパス光学工業株式会社



新規案件 受注は堅調



(映像事業) リアプロジェクション(背面投射式TV)向け映像エンジン

(画像事業) 新型ATM(Automatic Teller Machine)向けモジュール

ユビキタス社会の実現へ向け、本格始動

「Homeland Security への取組み - 日本政府の取るべき戦略と民間セクターの役割 - 」
調査研究レポート発刊。好評発売中。

当社のユビキタス研究所では、Homeland Security への取組みが、当社が提言する「ユビキタス社会の実現」において重要なステップと位置付けており、積極的な調査研究を行っております。また、当研究所のポリシーとして本調査研究を出来る限りオープンに進めてまいります。政府、公共機関、民間企業様との共同研究も歓迎致します。

▶調査研究レポート項目より

1. Homeland Securityとは(定義、目的 他)
2. 米国の取組み(国土安全保障省 他)
3. 日本の取組み(日本政府の対応、国民保護法 他)
4. 日本の現状と分析(日本におけるテロの可能性 他)
5. サイバースペースの脅威(サイバー・インシデント分析)
6. 日本版Homeland Security(日本版Homeland Security 他)

お問い合わせ先：
株式会社IRIユビテック
ユビキタス研究所 研究企画部
ubi-info@ubiteq.co.jp
TEL:03-3344-7514





ブロードバンド時代の情報発信拠点 (iDC)



[顧客例]



顧客: **コンテンツ事業者**

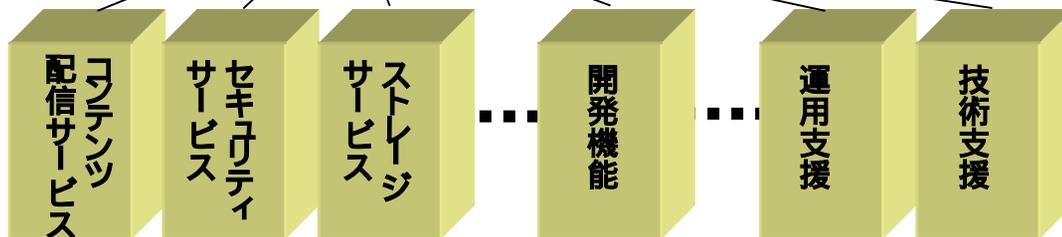
設立 : 2000年2月9日
 資本金 : 12億653万円
 取締役会長 : 藤原 洋
 代表取締役社長 : 大和田 廣樹
 出資企業 : 株式会社インターネット総合研究所
 ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド 2号
 ソフトバンクBB株式会社 (SBBB)
 ソフトバンク・インターネットファンド
 住友商事株式会社

ブロードバンドコンテンツの発信拠点

基本型iDC事業 (国内最大規模)

1000ラック以上の運用

10Gbps以上のトラフィック



IRI技術の集約拠点として、また、多くのパートナー企業との連携により、ブロードバンドバリューチェーンのあらゆる局面でサービスを提供。

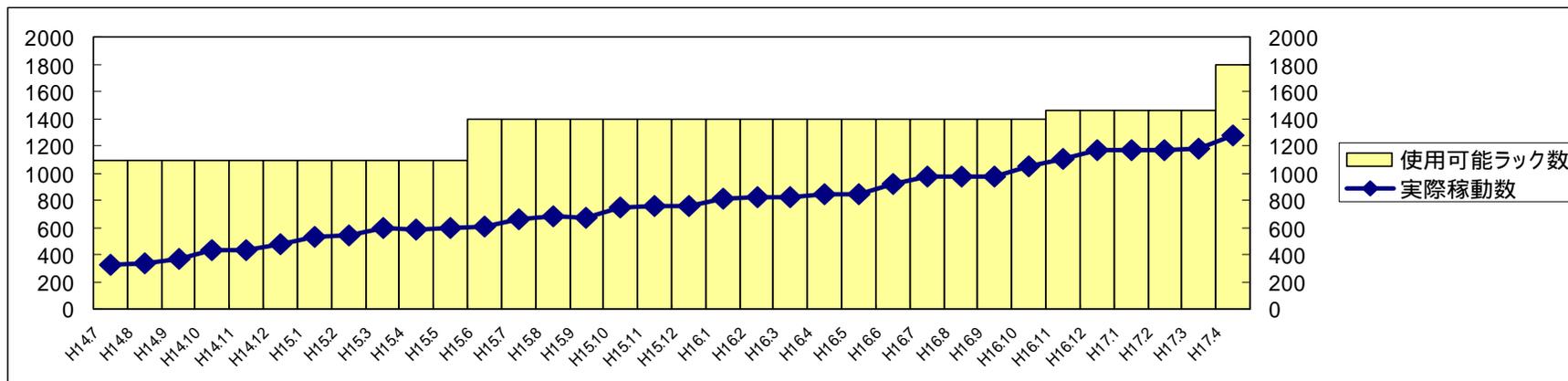
付加価値型iDC事業

ネットシネマ事業

2003/10 ~ 「ラヴスト！」4本立て
 2004/4 NHKエンタープライズ21の協力によりドキュメンタリー作品の制作に進出



データセンター事業



大手町サイトが販売好調であること、ブロードバンドの更なる普及とともに今後も継続して需要増大が見込めることから2004/11「天王洲サイト」を開設。

世界最大規模のトラフィック発信

ブロードバンド配信事業

本格ドキュメンタリー「ニッポンの挑戦 インターネットの夜明け」をヤフー株式会社と共同企画し、制作を開始。
作品は、2005年5月～Yahoo! JAPANのサイトにおいてネット配信。

本格派ドキュメンタリー番組アサヒ飲料「若武者誕生物語」を制作アサヒ飲料株式会社と共同企画し、4月18日(月)より配信開始。





業界初のGNSP (General Network Service Provider)

設立	: 2000年11月30日	出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所 ドリームテクノロジーズ株式会社、日本電気株式会社 日本電話施設株式会社 キャノンネットワークコミュニケーションズ株式会社 日本コムシス株式会社、住友商事株式会社 東京電力株式会社、株式会社NTTデータ
資本金	: 693,770,000円		
代表取締役会長	: 藤原 洋		
代表取締役社長	: 持塚 朗		

専門 WORKS

- インターネット利用者数の急増
- マーケットの急成長
- IPトラフィックの増大
- サーバー・端末数の増大
- 就業人口の横ばい



- サービスの多様化
- 回線の高速化
- 高い可用性の要求
- IPエンジニア不足
- 高い運用ノウハウの必要性



中立的なスタンスによる最適なネットワークインテグレーションのご提供

広帯域・大容量のレイヤー3 IX 商用インターネット
 エクステンジサービス
 (Broadband EXchange Service)

会員管理型ISP様、コンテンツプロバイダー様向け
 トラフィック交換サービス (Virtual Access Service)

IP Traffic Exchange

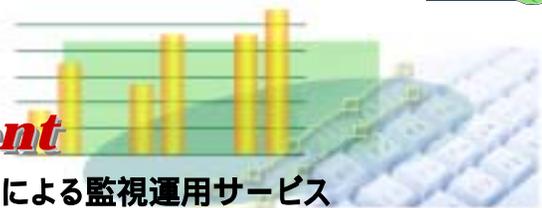


Advanced NI

最先端のIPテクノロジーノウハウを活かした
 高速かつ高信頼性のネットワークを実現するソリューション

Management

24時間365日有人による監視運用サービス



BEXサービス顧客数拡大

- ISP企業のトラフィック増加に対応すべく10Gサービスの提供を開始し、すでに1社稼働(月額1300万円)
- 大手SS店全国拠点接続の案件を受注。今後全国2200拠点に展開予定。
- 関西地区の営業規模拡大にともない名古屋APの運用を開始(5月末に大阪AP運用開始)
- BEXの顧客数増加にともない今後、BEXを利用した新たなサービスの検討を開始。

個人情報漏洩対策ソリューション発表

2005年4月から完全施行される個人情報保護法施行にともない、企業の情報漏洩リスクマネジメントとしてPCセキュリティ管理の重要性が高まっております。こうした背景のもとIRI-Comは、最先端のPCセキュリティプロダクトをラインアップし、企業における情報漏洩を防ぐソリューションを提供してまいります。最先端プロダクトと高レベルのIPセキュリティ関連ノウハウにより高品質のPCセキュリティソリューションを提供いたします。トップレベルのIPコンサルタントがクライアントの業務効率を落さない高性能なセキュリティシステムの有効活用や、TCO(Total Cost of Ownership)を考慮した導入提案を実施いたします。また、今後も企業の情報漏えい防止を実現するプロダクトとサービスメニューを増やし本市場における戦略的な強化を進めてまいります。



トピックス

- 医療系の事業シナジーを目的に株式会社メディモへ出資(出資額100百万円、当社出資比率82%)。資本提携により今後ケアハウスのIT化を推進。
- 携帯コンテンツ配信事業シナジーを目的に株式会社スペースアウトに出資(出資額105百万円)
- 関西ブロードバンド株式会社へ出資(出資額20百万円)。
- ISP向けサーバコロケーションサービス開始。ISP向けにOEM提供。
- CyberSpaceCommunications社”MyAccessサービス(人と機器の通信サービス)”に参画予定。



日本最大のブロードバンド情報専門サイトの運営

Commerce & Technology

- メディア事業 - 「RBB TODAY」の運営
- 「オートアスキー」の運営
- コンテンツサービス事業
- プラットフォーム事業
- システム開発及びITコンサルティング

設立 : 2000年4月28日
 資本金 : 2億9,000万円
 取締役会長 : 藤原 洋
 代表取締役社長 : 宮川 洋
 出資企業 : 株式会社インターネット総合研究所
 住友商事株式会社



ブロードバンド情報の最新ニュース
とISP案内サイト「RBB TODAY」
(月間1400万PV)

<http://www.rbbtoday.com/>



クルマ最速・総合ニュースサイト
「レスポンス」(月間 2000万PV)

<http://responce.jp/>



RBBTODAY、Responseニュースソース元としての地位確立 各大手ポータルへ提供



ニュースサイトとして各ポータルサイトへニュース記事を提供。RBBTODAY/レスポンスで9社へ提供。ニュースサイトとしての地位を確立。



メディア事業が成長を牽引、他事業が順調に拡大

メディア事業



RBBTODAY/レスポンス カテゴリーNO.1
メディアとして業界内でのブランド確立

コンテンツ
サービス事業
e-nenpi.com
dokoyo.jp

メディア事業より派生したコンテンツをサービスとしてISP等の企業へ提供

プラットフォーム事業



コンテンツとiDC機能等を組み合わせメディアを通じてブロードバンドユーザーへ提供



IRI-CTの自社コンテンツとして発売したWindows用ゲームソフト「ウィザードリィ・外伝 ~ 戦闘の監獄 ~」は発売日より1週間、アマゾンのPCソフト部門で1位を獲得。

FiberTech Medical Devices

医療分野のIT・IP化による新たなマーケットを創造

極細系の光ファイバーを使用した世界でもっとも細い内視鏡を製造。

2つの事業を柱としたM&D (Medical & Digital) 企業

設立	: 1998年10月
資本金	: 3億3,662万5千円
代表取締役社長	: 三池神也
出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所

低侵襲・非侵襲の 医療機器事業

大学・研究機関との連帯

- 三大生活習慣病分野
- 救急救命分野
- 産婦人科分野
- 小児科分野



医療デジタル ネットワーク事業

国・地方自治体との連帯

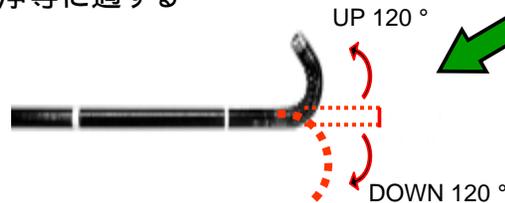
- 医療機関ネットワーク
- 医療機器サポート分野
- 医療画像処理分野
- 医療データセンター



**新たなマーケット
の創造**
(プレホスピタル構想)

携帯型気管支鏡ハンディースコープ供給開始

バッテリー式ミニ光源の採用で持運びが容易になり、
使用場所を限定しない製品である
高解像度イメージバンドルを使用した鮮明画像を提供する
内径2mmのチャンネル装備 吸引、注入、洗浄等に適する
救急医療にも活躍



先端部

ハンディースコープ



小児・産婦人科分野へ低侵襲医療機器の供給を強化

未熟児・新生児用に特化したNICU向け気管支鏡の製造供給
1.8mmの極細外径でありながら先端の首振りを実現、広い視野を確保
(現在認可されているファイバースコープでは最も細い首振り内視鏡)
未熟児・新生児用に対する優しい治療の補助となる

卵管鏡の製造供給
外径0.5mmの極細径内視鏡
卵管閉塞などの不妊症治療を大きく支える



少子化対策に貢献

先端部拡大



NICU内視鏡





価格競争力のあるコンテンツ配信サービス事業

設立	: 2000年11月2日	出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所
資本金	: 1億8,780万円		: 株式会社IMAGICA、伊藤忠商事株式会社
取締役会長	: 藤原 洋	代表取締役社長	: 菊地 頼

動画配信ビジネス・プラットフォーム「Digital Cascade」

Digital Cascadeとは・・・
大手ネットワーク事業者とのアライアンスによるブロードバンド時代を睨んだ高品質ストリーミング配信プラットフォーム。

現在、月間約2,500万Streamingを配信中！

(2005.2月末現在)

Digital Cascadeのサービスは配信業務にとどまりません。高品質なエンコード技術、中継・収録業務、編集業務、またインタラクティブなコンテンツ制作に必要な技術的後方支援、デジタルコンテンツ制作支援、Webアプリケーションの開発や動画コンテンツビジネスのプロデュースなど、次世代放送システム全般のサービスやソリューションをご提供しております。

大手ネットワーク事業者とのアライアンス



伊藤忠グループとの業務提携

伊藤忠エレクトロニクス(株)から「ブロードバンドゲートウェイ」事業()を譲受。ブロードバンドコンテンツ配信事業を共同で推進・展開。

()ブロードバンドネットワークを活用したビジネスモデル提案から最適な配信プラットフォーム環境を提供するワンストップブロードバンドサービス。

法人顧客の獲得を狙い伊藤忠商事からPoDへの資本参加を始め、広範な資本業務提携を行っております。

新規事業開拓：広告モデルによる無料ブロードバンド配信 (名称 GYAO) 配信ASP



GyaOとは...

昨年、AVEX、GAGAコミュニケーションズに資本参加し、巨大なコンテンツ・ホルダーとなったUSENグループが4月6日からスタートさせた地上波テレビと同様のCM並びにバナー広告により、視聴者に対し無料で動画コンテンツを配信するVoDサービスサイト。

コンテンツとしては、ハリウッドの大作映画、アリーナクラスのアーティストによるライブからドラマ、ドキュメンタリーまで、現在約300コンテンツのラインナップとなっている。

USENグループでは、今後1年間で視聴者1000万人の獲得を目標にしており、将来的には1000億円規模の売上を視野に入れている。

本事業におけるPoDの役割

技術的事業パートナーとして、動画配信プラットフォームに関し、無料配信による高トラフィックに耐えうる世界初の10GbE対応の配信サービスを提供している。



3 . IRIグループ全体戦略



【Everything on IP! & IP on Everything !】

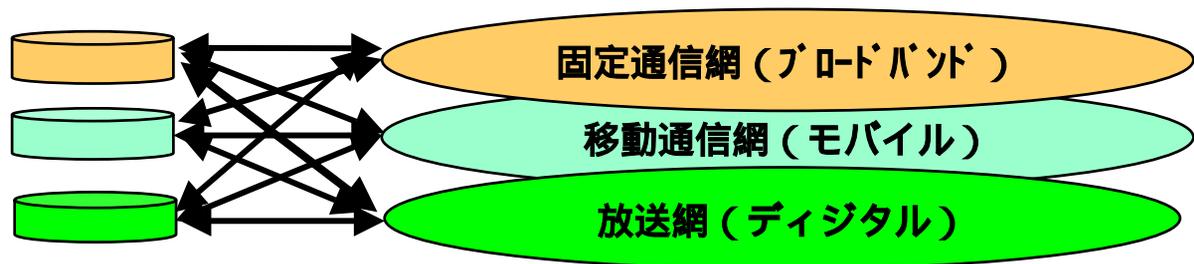
20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は
IP (Internet Protocol) 技術である

IRIは、産業革命の担い手として

あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく企業です！

IRIグループはIP(インターネット・プロトコル)という技術革新の担い手として、テクノロジーを各産業分野の主要企業に提供する企業グループです。=「IPテクノロジー・プロバイダー」

最終製品・最終サービスは、当社グループのテクノロジーを利用した顧客企業から提供されています。



	コンテンツ事業者	インフラ事業者	プラットフォーム事業者
直接顧客 ドメイン	ヤフー、楽天等 コンテンツ事業者	NTT、KDDI、SBグループ等 通信サービス事業者、法人IT部門	シャープ、松下、オムロン等 PC・家電・通信・産業機器メーカー
IRI グループ (事業規模)	ブロードバンドタワー PoD IRI - CT	IRI本体 IRIコミュニケーションズ	IRIユビテック ファイバーテック

コンテンツ流通のためのテクノロジー

インフラ運用のためのテクノロジー

機器組込のためのテクノロジー

IRIは、産業界が必要とする最先端のIPテクノロジーを提供するために、最適なビジネスモデルを企画し実現する「IPテクノロジー・ビジネス・インキュベータ」であり、「直接金融のメリット」を活用した成長モデルを実現する企業です。

$$\text{IRIの企業価値} = \left\{ \begin{array}{l} \text{IRI本体のビジネス・インキュベーション能力} \\ + \quad (\text{各子会社の企業価値} \times \text{IRIの持株比率}) \\ + \text{現金・預金} \end{array} \right.$$

IRI本体のビジネス・インキュベーション能力とは、以下の4点に集約されます。

IPテクノロジーの最先端技術の専門家集団 + コーポレート・ファイナンスの専門家集団

+ コンプライアンス型法務の専門家集団 というプロフェッショナルの集合体

ビジネス企画力 3つのパターン(考案・改良・転換(既存事業のIP化))で最適なビジネス企画を行い、事業パートナー[NTT、東京電力、NEC、キヤノン、松下電工、住友商事、SB等]を選択する力(M&Aを除く)

実例:BBTower、BBX/ICO(現IRI-Com)、IRI-CT

人材育成 / 獲得力 新規事業の立ち上げに最適な人材を育成 / 獲得する力

実例:IRI-Com、PoD

M&A力 グループの成長にとって最適な外部企業 / 外部事業を友好的に取込む力

実例:IRIユビテック、ファイバーテック

3-4. IRIのビジネス・インキュベーション・モデル

【企画・検証】： 事業性、継続性、補完性を中長期的にデザイン

IP技術に特化し適用産業分野に応じた「ビジネスモデル」を3つのパターンで企画

考案 改良 転換(既存事業のIP化)

【顧客ドメインの定義】： 顧客指向の具体化プロセスを立案

企画したビジネスモデルの顧客ドメインを複数のパターンで定義

通信サービス コンテンツ事業者 メーカー 一般企業
 医療法人 学校法人 官公庁 コンシューマ

【具体化プロセス】： 当面は先行投資後3年目処に黒字化

社内立案による起業



外資先端企業と合併



国内有力企業と合併



外部からグループ入り



3-5. IRIの歩みと方向性 ~ 4つのフェーズ

「インターネットをあらゆる産業へ」を理念に通信・コンテンツ・ネット機器ベンダーと共に8年

第4フェーズ : [国際市場における連携・競争フェーズ] 国際戦略企業への発展を目指して 2005年 ~

【ジュリアーニ・パートナーズ/セイジ・キャピタル・グローバルと資本業務提携】 「国際連携に基づく新事業の創造」
 ・ Giuliani/Sageへの転換社債型新株予約権付社債発行:45億円 本体投資機能の強化
 ・ ファンドマネージメント会社の共同設立:100億円 ファンド投資機能の構築

第3フェーズ : 「株式市場の競争フェーズ」 株価が重要な意味・黒字転換
 【リーマンブラザーズ・アジアリミテッドから32億円の成長資金調達】

- ・ IRI-Com、IRIユビテック、BBTowerグループコア3社の資本増強
- ・ ファイバーテックを100%子会社化し先端医療分野に進出

第2フェーズ 「顧客獲得の競争フェーズ」 上場後の事業規模3年で約10倍
 【デロイト・トウシュ・トーマツ・テクノロジーFast50で4位にランクイン】

- ・ コンテンツ事業者向け「iDC(インターネットデータセンター)事業会社」設立 BBTower
- ・ 電子機器メーカー向け「組込み部品事業会社」(タウ技研)買収 IRIユビテック
- ・ 通信事業者/企業向け「ネットワークアウトソーシング事業会社」設立 IRI-Com

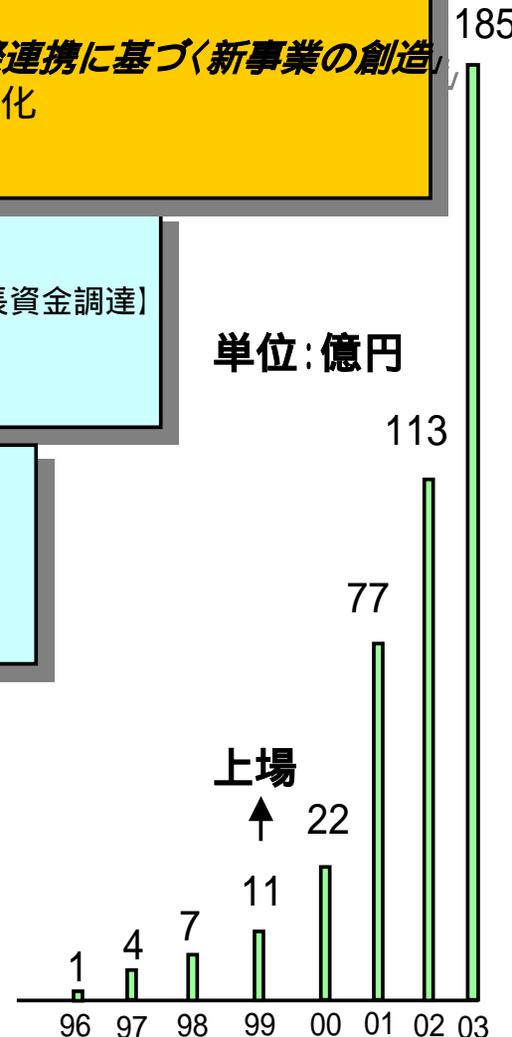
第1フェーズ 「資金調達の競争フェーズ」1999年12月22日東証マザーズ第1号として上場
 【約109億円の資金調達】

- ・ JPIX(日本初の商用IX:プロバイダー間交換)設立・運用
- ・ NTTドコモと資本業務提携

創業:「インターネット・テクノロジー系新興企業」として創業 1996年12月

- ・ 通信キャリア向け「インターネット接続事業の技術コンサルティング」

単位:億円



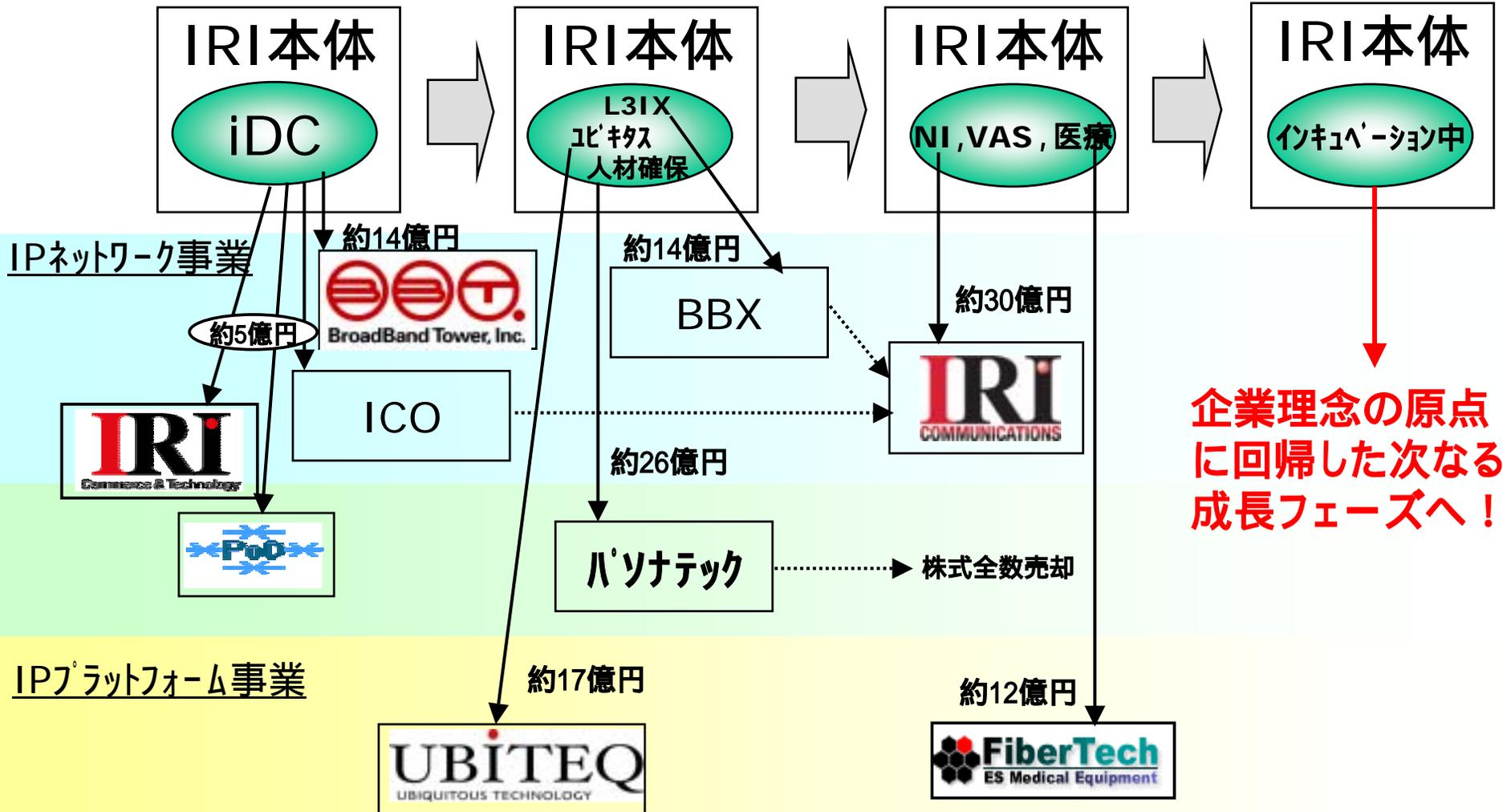
3-6.成長のための本体による事業創造メカニズム

第1フェーズ (96~99)
【マザーズ: 109億円調達】

第2フェーズ (00~02)
【先行投資事業拡大】

第3フェーズ
【リマン: 32億円調達】

第4フェーズ
【ジュニア: 140億円調達】



3-7.新規事業戦略～IP技術の社会的位置づけの変化

IP技術の時代背景

インターネットの位置づけ

創業時:インターネット草創期

インターネットって何だろう?

現在:ブロードバンド普及期
通信サービス事業者の
IPネットワークインフラ整備需要

楽しい、面白い、便利!

将来:ブロードバンド活用期
ブロードバンドが浸透し
IPネットワークはインフラ整備段階から
具体的に活用される時代へ

+

時代のニーズ
ユビキタス社会、健康な社会
安全な社会

無くては困る!社会インフラへ

IRIの経営戦略

理念:あらゆる情報、文化、社会活動を
IPネットワーク上に実現していく!

【事業規模 = 10億円～】

常に先の時代を見据えIP技術によって進化する
ネットワーク事業分野を創出してきた

既存事業戦略

ネットワークインフラレイヤーを核としたIRIグループの構築
(BBT、IRI-Com、IRIユビテック、IRI-CT、PoD)

【事業規模 = 100億円～】

今後の新規事業戦略

既存産業へIP技術を注入し新たな成長産業を創出

+

3つの新規開拓市場にフォーカスした重点投資戦略

デジタルネットワーク家電事業

IT医療事業

ホームランドセキュリティ事業

【事業規模 = 1000億円～】

3-8.新規開拓分野と横断的なグループシナジーの提供

ニーズ

展開例

重点分野

新規事業

グループ既存事業

